

## 新棟への円滑な移転の取り組み

大分大学医学部付属病院 木村 照美

### 【実践の概要】

病院再整備計画が進行する中、新棟への円滑な移転を目的に看護部再整備WGを活用し看護部全体を巻き込んだ取り組みと他部門と連携調整に取り組んだ。目標を目標1：看護師が移設後すぐに業務が行える物品の配置ができる。目標2：安全な患者移送スケジュールをもとに各看護職員が行動できる（安全に患者移送が終了する）を目標とした。各部署の看護関連物品の標準配置化、共通物品の統一化の方針を合意した。現有物品、設備の洗い出し、移転に向けて不要物品を整理し、新規購入や移設の有無の確認や建築現場での配置場所の確認を行い、物品レイアウトを完成させた。物品搬送スケジュールに沿って実施中である。また患者搬送マニュアルをもとにシミュレーションを行い、マニュアルの修正への提言を行った。職員全員が移転に向けて意識を高めていけるよう、病院再整備計画・新棟移転計画の職員周知方法を医療情報部に協力依頼し閲覧システムを作ることができた。

### 【背景】

病院再整備計画が進行し、新棟の建設が12月に完了、25年5月頃に移転予定である。運用を考慮した物品の選択、物品購入、物品移設、患者移送計画を進めていかなければならない。現在移転に向けた概要の計画段階である。そのため看護部が担う役割や準備について具体的な検討が始められていない。病院のスケジュール管理は施設課や再整備推進室が行っていくが、看護部としてスケジュールを浸透させ、看護部全体で検討できる取り組みが必要とされている。現在、看護部再整備ワーキンググループが決定しているが、4月の異動で再整備に関わった看護師長が交代したことで、再整備計画の経過、現状が周知でいていないメンバー構成となった。業務担当副看護部長として新棟への移転が円滑に行えるための調整を行っていくことが役割として求められている。

### 【実践計画】

目標1：看護師が移設後すぐに業務が行える物品の配置ができる（達成日3月）

<計画>

- 1) 看護部が関与する物品調査を行う（10月まで）
- 2) 移設までに検討しなければならない事項についてリスト化する（9月まで）
- 3) 物品レイアウトを決定する（12月まで）
- 4) 物品移設の方法の検討を開始する（12月まで）
- 5) 移転までの物品搬送スケジュールの作成（1月まで）

目標2：安全な患者移送スケジュールをもとに各看護職員が行動できる（達成日：移設日）

<計画>

- 1) 患者移送スケジュールの作成（1月まで）
- 2) 患者搬送シミュレーションの実施（3月まで）
- 3) 患者移送スケジュールの職員周知（3月まで）

### 【結果】

目標1について

毎回のWGに経営管理課から参加を依頼し、病院の再整備に関する予算、物品購入計画、病院の移転に向けた物品に関するスケジュールの説明を行ってもらい方向性を確認した。看護部運営会議で、各部署の看護関連の場所の物品の標準配置化、共通物品の統一化の方針を合意した。現有物品、設備の洗い出し、移転に向けて不要物品を整理し、新規購入や移設の有無の確認を行なった。WGでは毎回、

レイアウトの検討を議題に入れ、内装工事期間は施設課と建築現場での配置場所の確認を行った。病院の新棟移転WGが11月より活動開始したが、物品調査、物品の搬送方法を検討中である。看護物品の移転計画の検討をすすめ、移設物品リスト作成し、移転前後の患者ケアに必要な物品の合意、搬送時期の合意、看護部関連の医療機器の移設スケジュールを完成させた。購入・移設リストを12月末に完成させた。設備上の制約からレイアウトの変更、物品の規格変更が生じたが、1月末に購入物品、レイアウトがほぼ決定した。医療機器の移設物品は業者と移設方法の確認が終了した。

目標2について

11月から病院患者搬送WGにより患者搬送について検討が開始された。看護部の再整備ワーキングでマニュアルに沿って1月にシミュレーションが実施できた。移転日が平成25年4月29日に決定したことから、職員への移転準備の進捗状況、マニュアル周知の手段として、2月中旬から電子カルテ初期画面のインフォメーション画面による閲覧できるように、医療情報部と調整を行い閲覧システムを作ることができた。

#### 【評価及び今後の課題】

目標1について

移転に伴う物品の調査、新規購入計画、移設計画は守備範囲の広い看護部にとって、膨大な作業であったが、移転に関連する部署の看護師長を主要メンバーにしたことにより、責任範囲を明確にした組織化ができ、準備内容を分担して行うことができた。WGの開催とともに新棟のナースステーションのレイアウトの検討を繰り返すことで、設備・構造を各メンバーが十分把握することができ準備計画が円滑に行えた。物品配置計画において、電気、機械、建築などの施設課、医療情報部との連携が重要であった。具体的な打ち合わせを何度も行い確認してきたが、コンセント、天井の点検口、消防設備、医療情報関連の配線の位置によってレイアウトの変更が生じた。設計段階から看護部として関わってきたが、専門分野でない事から出した意見がどのように反映されたのかをイメージできないことが多くあり、広さ、位置など立体的にイメージできる取り組みも必要であった。現段階では評価目標に沿って評価を行ない、部署に配置できる準備までは達成できているが、最終目標を達成するには、移転までに部署の看護師個々が配置を確認できるための取り組みが残されている。

目標2について

患者搬送シミュレーションでは具体的な方法についての意見が多く出され、看護部再整備WGから提言がマニュアルの修正にいかすことができた。今後も病院全体の患者搬送シミュレーションにおいて看護部のリーダーシップが必要であると考え。患者を安全に新棟に移転させるには、医師、看護師、コメディカル事務職員の協力が必要である。各自が新棟への移転を成功させる役割があることを認識できるよう、早期から再整備計画の進捗状況を周知していく取り組みが重要と考える。今回、看護職員には早期から、機会あるごとに進捗状況を伝えてきた。部署において、看護師がリーダーシップをとり準備を進めることができている。2月時点では成果目標に沿って評価を行ない、目標達成できている。4月29日が移転のため、最終評価は5月に行う予定である。今後シミュレーションを行ない、マニュアルに沿った行動ができるよう体制を進めていく予定である。